2019 年 2 月
JETRO ドバイ

UAE 北部首長国の概況とビジネス機会～④フジャイラ首長国～

０．はじめにーUAE の「北部首長国」

アラブ首長国連邦（UAE）は、7 つの首長国からなる連邦国家である。その構成を概観すると、首長が連邦大統領を兼ね、UAE 全体国土の 8 割、GDP の約 7 割、人口の 3 割（自国民では 4 割強）、原油生産の 9 割を占める**アブダビ首長国**が大きな地位を有する。次いで**ドバイ首長国**の地位が高く、首長が連邦副大統領と首相を兼ね、GDP の 3 割・人口の 4 割を占めている。**「北部首長国」**と総称されるその他 5 つの首長国は、あわせて残りの GDP の 1 割、人口の 3 割弱を構成している。

表①：UAE における首長国別の経済・人口規模

首長国名	首長家	面積	名目 GDP（十億 USD）	人口（万人）	自国民人口（万人）
アブダビ	ナヒヤーン家	67,340 ㎢	262 (2014)	291 (2016)	40 (2010)
ドバイ	マクトゥーム家	3,885 ㎢	92 (2014)	270 (2016)	17 (2010)
シャルジャ	カーシミー家	2,590 ㎢	31 (2014)	141 (2015)	15 (2010)
アジュマン	ヌアイミー家	259 ㎢	4 (2013)	50 (2017)	4 (2010)
ラス・アル・ハイマ	カーシミー家	1,684 ㎢	4 (2009)	35 (2015)	10 (2010)
フジャイラ	シャルキー家	1,580 ㎢	3 (2009)	23 (2016)	6 (2010)
ウンム・アル・カイワイン	ムアッラー家	720 ㎢	0.6 (2009)	5 (2005)	2 (2010)
UAE 全体	―	83,600 ㎢	385(2014)	1,043(2018)	95(2010)

出所： The Official Portal of the UAE Government、IMF 等より作成

注）各項目の数値の後のカッコは該当年を示す。UAE 政府の公表する統計は速報性に乏しく、現在、出所ウェブサイトで確認できる最新値を記載

また、UAE 全体における日本企業の進出状況は、2017 年 5 月時点でジェトロ・ドバイ事務所が実施した推計によると、合計 442 事業所となっている。内訳は、ドバイが最も集中しており 345 事業所(78%)、アブダビが主に石油・ガス関連や銀行・商社等の企業を中心に 73 事業所(16%)が立地しており、北部首長国は合計で 24 事業所(5%)にとどまっている状況である。

以上のように北部首長国の経済規模や、これまでの日本企業の経済活動は限定的ではあるものの、アブダビ・ドバイと比較して低廉な労働力や各首長国が推進する産業多角化政策などを活かしたビジネス機会が存在する。本シリーズではこうした北部首長国について、首長国ごとに経済概況とビジネス機会の解説を行いたい。以下、本稿では**「フジャイラ首長国」**に焦点を当てて解説する。

Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

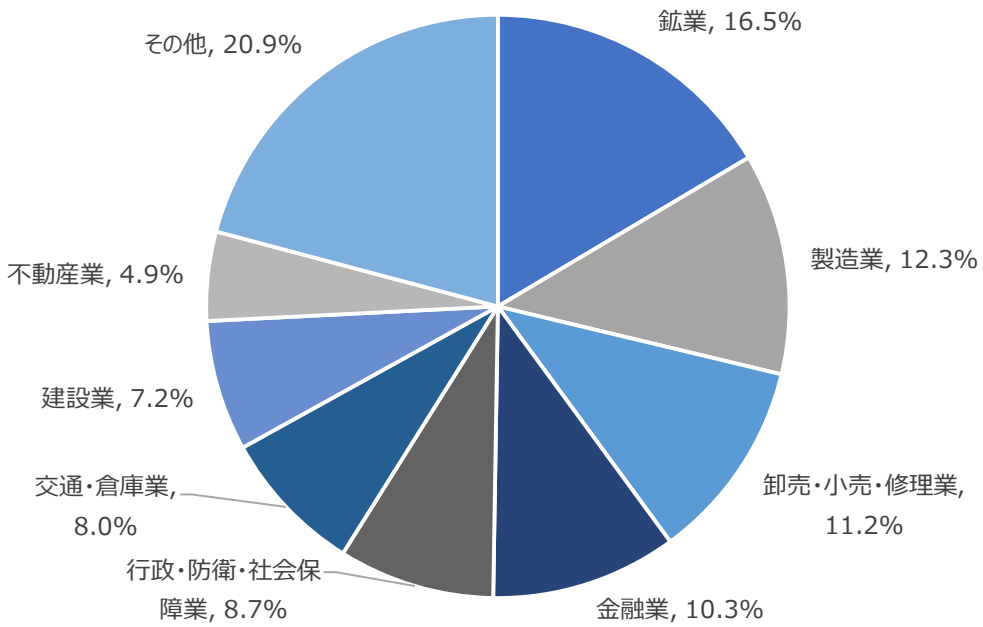
1．フジャイラ首長国の特徴―産業構造・経済動向

フジャイラはもともとシャルジャの一部であったが 1952 年に分離、その後 1971 年、UAE の発足とともに連邦を構成する首長国の一つとなった。インド洋・オマーン湾に面し、UAE ではペルシャ湾（アラビア湾）に海岸線を持たない唯一の首長国である。地理的にはオマーンからハフィート山系が延びる山がちな地形となっており、南端に中心地のフジャイラ市、シャルジャの飛び地であるコール・ファッカンを挟んで北側にディバ市等がある。北端はオマーンの飛び地であるムサンダム特別行政区に接している。

フジャイラは古くから主にタンカー等の外航船舶の燃料補給（バンカリング）地として有名であった。近年では地政学的なリスクが潜在するホルムズ海峡の外側に位置するという地理的優位性から、エネルギー流通のハブとしての存在感が増しており、現在フジャイラ港はシンガポール、ロッテルダムと共に世界 3 大のバンカリング地へと成長した。アブダビの陸上油田地域からの原油輸送パイプラインも完成し、製油所や原油等製品タンクなど、エネルギー関連のプロジェクトの建設が進められている。

フジャイラの産業としては、下図で示すGDP構成比において最もシェアの大きい主要産業は鉱業である。石油・天然ガスなどのエネルギー資源の産出はないものの、山間からセメントや石材、クロム鉄鋼や石英等の鉱物資源が豊富に産出されており、連邦政府やアブダビからの援助によってセメントやセラミックの工場も建設されている。

図：フジャイラの GDP 構成比（2017 年）



出所：Fujairah Statistics Center “The Statistic Yearbook 2017”

Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

フジャイラに操業しているフジャイラ・セメントインダストリー(Fujairah Cement Industry)社はUAEセメント製造大手企業である。同社は北部ディバに本社を置き、米国や英国の製品基準を満たす品質のセメントを製造可能なプラントを有している。2017年には日量8,000トンのクリンカープラントを新設しており、年間のクリンカー生産量が420万トンまで拡大し、UAE最大のクリンカープラントとなった。また、建設、不動産、ヘルスケア、教育、石油貯蔵、航空、貿易、サービスおよびホテルといった事業を展開する大手コングロマリットであるフジャイラ・ナショナル・グループ(FNG, Fujairah National Group）も同首長国内において4,000人以上を雇用する等、規模の大きな企業も複数存在していることが分かる。

フジャイラは2015年に"Fujairah 2040 Plan"を公開した。同プランは、住宅および輸送インフラ設備の強化に焦点を当てており、道路の改善、港湾および住宅の建設、医療施設の拡充等の内容について15億AEDを投資するとの内容が記載されている。その他、フジャイラにおいては観光業が成長を続けており、近年、海浜のリゾートホテルも建設されている。2018年には、インターコンチネンタル・フジャイラ、ブルーダイアモンド・アル・サラーム・リゾート、ミラージュ・バブ・アル・バハール・ホテル等の国際資本も含めた高級ホテルが相次いで開業しており、フジャイラへの訪問観光客数も80万人を突破した。スクーバダイビング等のアクティビティも充実しており、UAEのマリンリゾート地としても脚光を浴びつつある。

2. フジャイラ首長国のビジネス環境

フジャイラに事業拠点を設けることのメリットは、ドバイやアブダビと比較してフリーゾーンでの会社設立費用や維持費用、フリーゾーン以外の地域でもオフィス賃料等が安価であること等が挙げられる。一例として、ドバイの空港フリーゾーン(DAFZ)に25平米程度の小規模オフィスを賃貸し、貿易会社を設立した場合、事業ライセンス料(General Trading License）及びオフィスの賃料として合計年84,000ディルハム（約252万円: 1 AED＝30円として計算）を支払う必要があるが、下表のフジャイラ・フリーゾーンにおいては、20平米程度の小規模オフィスを賃貸し、貿易会社を設立した場合、事業ライセンス料（General Trading License）及びオフィスの賃料として合計年30,000ディルハム（約90万円）が必要となる。

フジャイラを含むUAE国内（フリーゾーン外）での法人設立には、本稿執筆時点においてはUAE国民または現地企業による過半数の出資が必要である。外国企業が独資での進出が可能な、フジャイラの主要なフリーゾーンは次の通りである。

表② フジャイラの主要なフリーゾーンの一覧と概要　(出所：各フリーゾーンおよび各社ウェブサイトより作成)

区画名	概要
フジャイラ・フリーゾーン（Fujairah Freezone）	20年以上の歴史を持つ老舗のフリーゾーン。フジャイラ市の北部に位置し、フジャイラ港に隣接している。通常のオフィスの他、バーチャルオフィス、オフショア登録、倉庫等の設備を提供している。

Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

フジャイラ・クリエイティブ・シティ（Fujairah Creative City）	フジャイラにおいてメディア関連企業の誘致を目的として 2007 年に設立されたフリーゾーン。敷地面積は約 200,000 平米にのぼり、出版業、放送業、マーケティング・メディアサービス業、音楽・エンターテイメント業、コンサルティング業、映画プロダクション業、その他 IT 業等の企業が入居している。

上記の他、フジャイラにおける重要なインフラとして欠かせないのが、フジャイラ港である。前述の通り、フジャイラ港はその地理的優位性からバンカリング拠点として存在感を有している。また、アブダビ国営陸上油田操業会社（ADCO, Abu Dhabi Company for Onshore Oil Operations）によって操業されている、アブダビのハブシャンとフジャイラ港を結ぶ「ハブシャン・フジャイラ・パイプライン」は、UAE 国内で唯一ホルムズ海峡を迂回する原油パイプラインであり、世界的なタンカー航路の要衝であるホルムズ海峡の封鎖等の有事があった際のバックアップとしても重要な役割を果たしている。

3．フジャイラ首長国のビジネス機会

フジャイラにおいてビジネスチャンスのある産業としては、まず鉱業関係及び石油関連プロジェクトに関する産業が挙げられる。観光等、上記以外の分野での産業育成を進めてはいるが、フジャイラにおける経済活動の多くは鉱業や石油関連産業であり、これらの分野の新規プロジェクトに注目が集まっている。例としては新しい製油所の建設、地下や洋上での石油備蓄施設等があげられ、また関連してエネルギー供給基地であるフジャイラ港の拡張計画も進行中である。

その他、海水淡水化プラントといった大型プロジェクトについて、フジャイラの経済発展や、それに合わせた人口増加等に伴い、徐々に推進されていくものと考えられる。実際に、連邦水電気庁（FEWA, Federal Electricity and Water Authority）とアブダビのムバダラ開発公社によって発表された計画によると、両社はフジャイラ、ラス・アル・ハイマ、ウンム・アル・カイワインの 3 つの北部首長国において 2021 年までに一日当たりの生産量が合計 5 億リットルを超える 3 つの大型海水淡水化プラントを新設する予定としている。また、都市開発の観点では、Al Taif Investment（Dubai Investments と Fujairah Investment Establishment による JV）が投資する「フジャイラ・ビジネスセンター」プロジェクトも 2020 年 6 月に完了すると見込まれている。同プロジェクトは、フジャイラ市内において 19 階建てのホテル棟及びオフィス棟をそれぞれ 1 棟ずつ建設し、それらにショッピングモール等の施設も併設させるという大規模な開発プロジェクトである。なお、同プロジェクトの EPC は中国国有企業[1]が務めている。こうした大型のインフラ関係や都市開発プロジェクトについては北部首長国における主要なビジネスチャンスとなると考えられ、フジャイラについても同様である。

1 中国建築股份有限公司の中東法人 China State Construction Engineering Corporation (Middle East)

Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

最後にフジャイラは UAE において人口、所得水準とも限定的であり、消費市場はまだまだ発展段階にあると言えるだろう。現状のマーケットの規模感や特色を把握するうえで参考となる、現在のショッピングモール等の主要商業施設を下表に取りまとめる。近代的なモールがいずれも 2010 年代にオープンしており、上述の通り今後の市場拡大も期待されている。

表③ フジャイラの主要な商業施設 (出所：各施設ウェブサイト等より作成)

名称	概要
フジャイラ・モール (Fujairah Mall)	35,000 平米、81 店舗のテナントとレストランがある、フジャイラ最大のモール。2014 年にオープン。アブダビ首長家のシェイク・スルール(H.H Sheikh Suroor Bin Mohamed Al Nahyan)がオーナーのアスワーク・マネジメント&サービス(Aswaq Management and Servies)が経営している。
シティ・センター・フジャイラ (City Center Fujairah)	約 34,000 平米、105 店舗の小売とレストラン。2012 年にオープンし、テナントの 85%がフジャイラ初進出となった。中東諸国に数多くのモールを展開するドバイ大手財閥マジッド・アル・フタイムが経営。11 ものスクリーンを擁する映画館もある。中所得層以上を対象としたモール。
ルル・モール (Lulu Mall)	24,230 平米、約 70 店舗、2014 年にオープンした。インド系財閥のルル・グループ・インターナショナルが経営している。町の中心部に位置する庶民的なモール。同大型スーパー、ルル・ハイパーマーケットが中心テナントとして入居。

以 上

UAEプラットフォーム・コーディネーター：ksn Research & Consulting, GEN Events LLC
日本貿易振興機構（ジェトロ）ドバイ事務所
35th Floor, #3503 - #3506, The One Tower, Barsha Heights, TECOM, Dubai, U.A.E.

【おことわり】本資料は「UAE 中小企業海外展開現地支援プラットフォーム事業」の一環として作成したものです。提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご利用下さい。ジェトロではできるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本資料で提供した内容に関連して不利益等を被るような事態が生じたとしても、一切の責任を負いかねますので、予めご了承下さい。

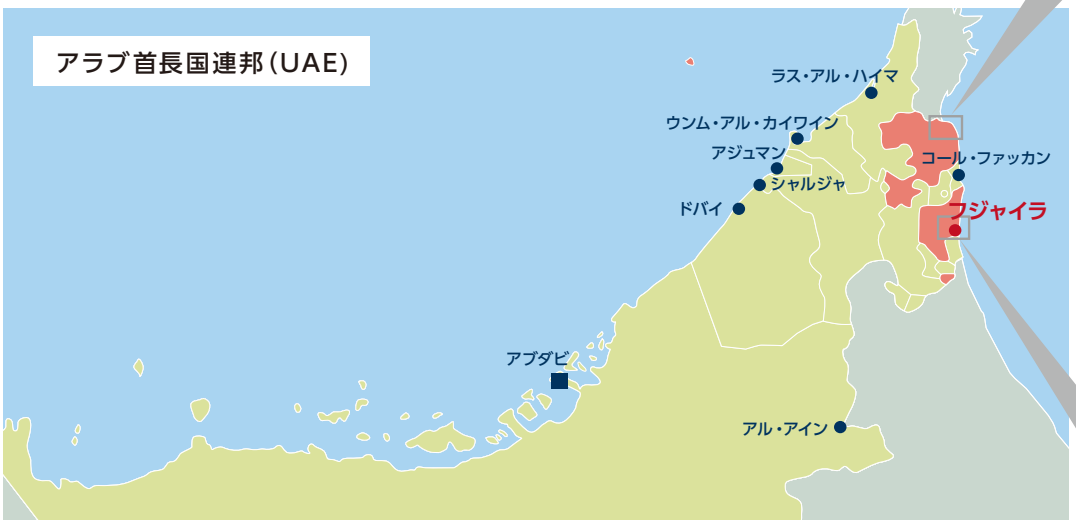
Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

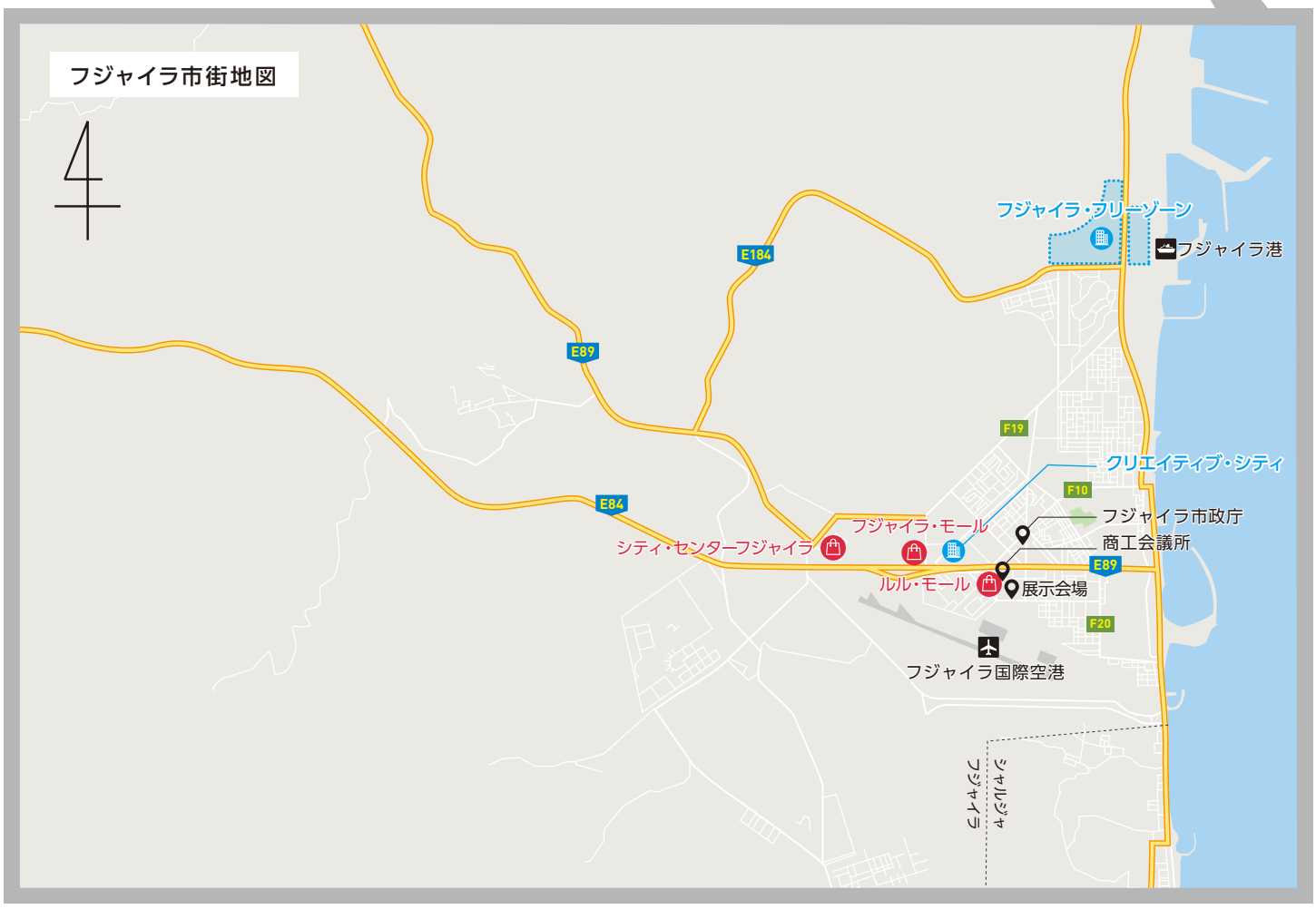
フジャイラ首長国

基本情報

首長家 …… シャルキー家
面　積 …… 1,580㎢
名目GDP …… 30億USD (2009)
人　口 …… 23万人 (2016)
自国民人口 …… 2万人 (2010)







Copyright © 2018 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.